

～ 見附市学校適正配置計画（案）について～

新しい見附市の学校の姿を紹介します



学校適正配置計画（案）策定までの経緯

小中学校の適正規模・適正配置検討の必要性

背景

学級数や児童生徒数の減少、偏在

小学校

小規模校の取り組みへの評価の一方で、**保護者からの不安の声も**

中学校

中学校2校 **老朽化に伴う大規模改修の予定**

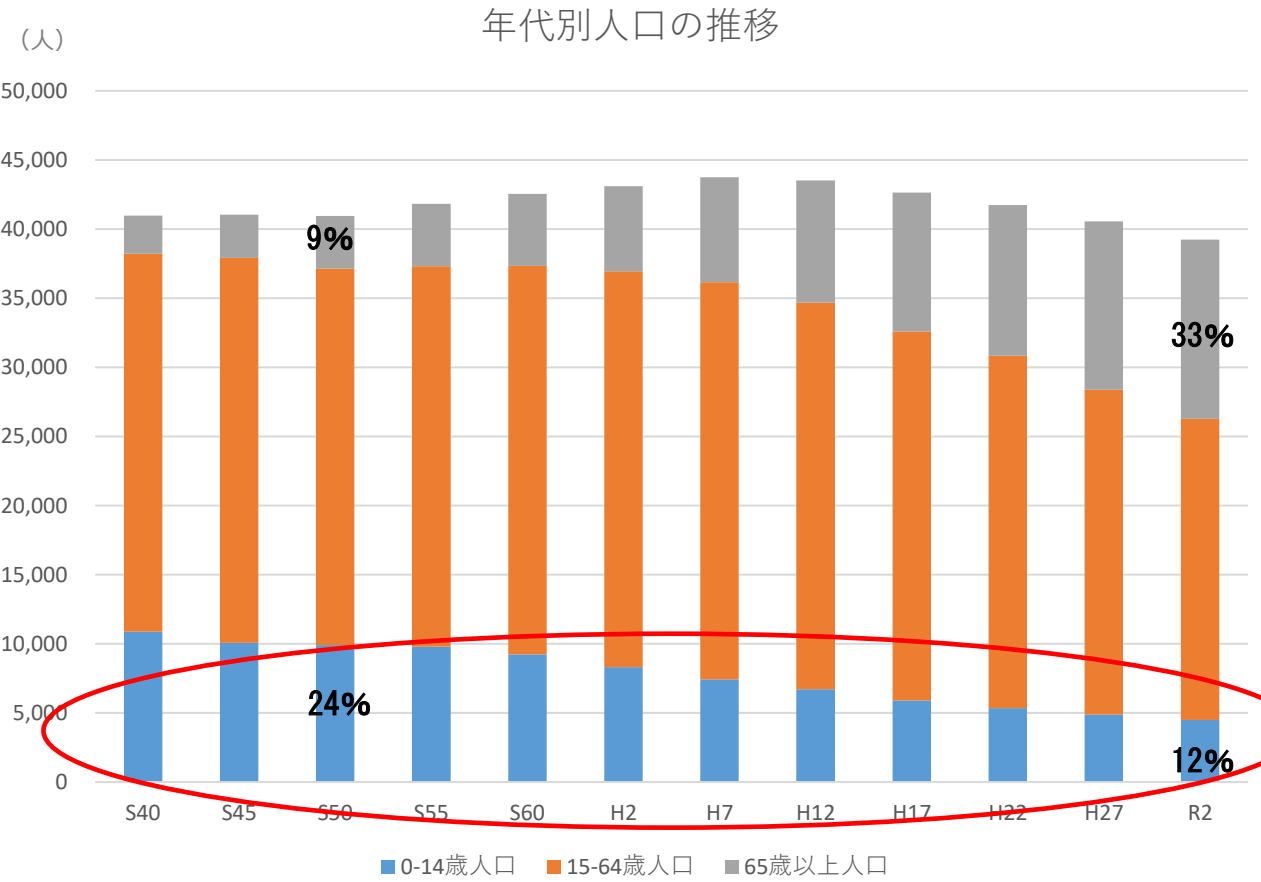
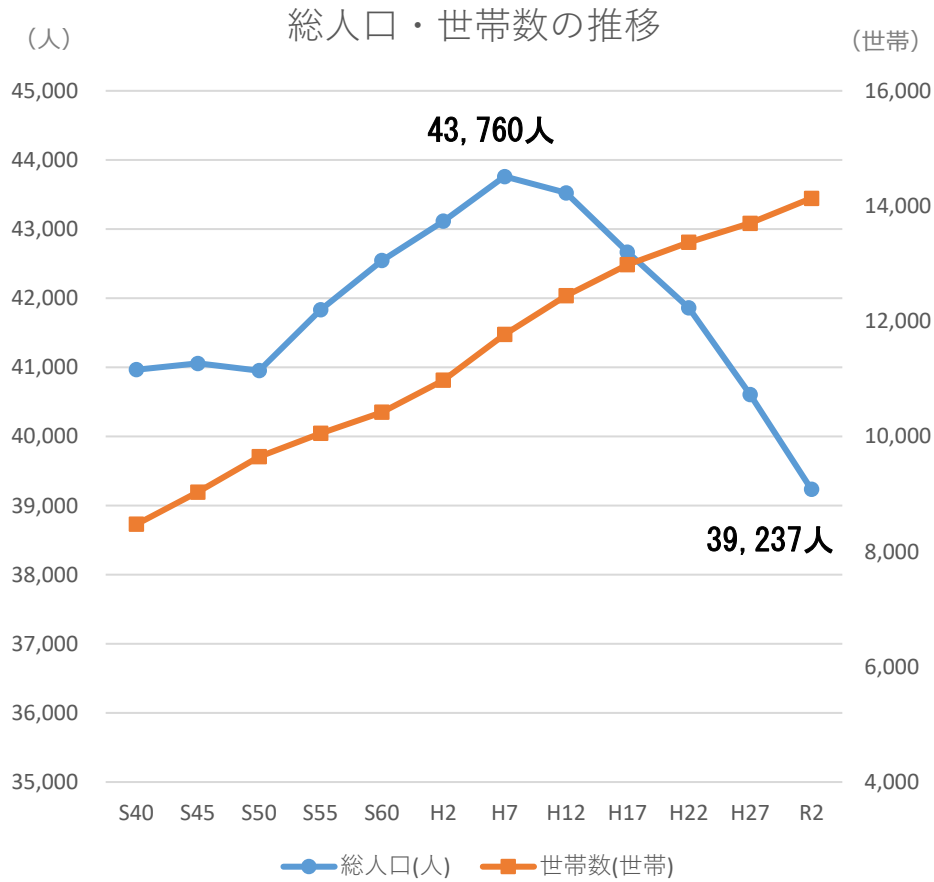
令和5年度 子育て世代を中心に市民の声を聞く**タウンミーティング**開催

令和6年度 **市立学校配置等検討委員会**を設置、こどもたちにとって目指すべき教育環境について教育委員会へ答申を提出

令和7年度 適正規模に関する**市民アンケート**を実施
見附市学校適正配置計画（案）を策定



見附市の人口と児童生徒数の推移



新潟県の小中学校の状況

児童生徒数の推移

出典：新潟県統計年鑑

単位：人

	平成12年度(2000)	令和6年度(2024)	増減数	増減率 %
小学校	148,875	96,426	△52,449	△35.2
（見附市）	2,765	1,838	△927	△33.5
中学校	84,473	51,473	△33,000	△39.1
（見附市）	1,602	931	△671	△41.9

学校数の推移

単位：校

	平成12年度(2000)	令和6年度(2024)	増減数	増減率 %
小学校	645	433	△212	△32.9
（見附市）	8	8	0	0.0
中学校	255	228	△27	△10.6
（見附市）	4	4	0	0.0

見附市立小中学校統廃合の経緯

- 昭和42年 下林小と坂井小を今町小へ統合
- 昭和43年 新潟中を見附中に統合
- 昭和54年 北谷中と上北谷中を統合し見附中の一部を分離して南中学校を新設
- 昭和61年 葛巻中と見附中の一部を分離して西中学校を新設

→ 現在の小学校8校、中学校4校体制へ
(小学校は58年間、中学校は39年間統廃合なし)

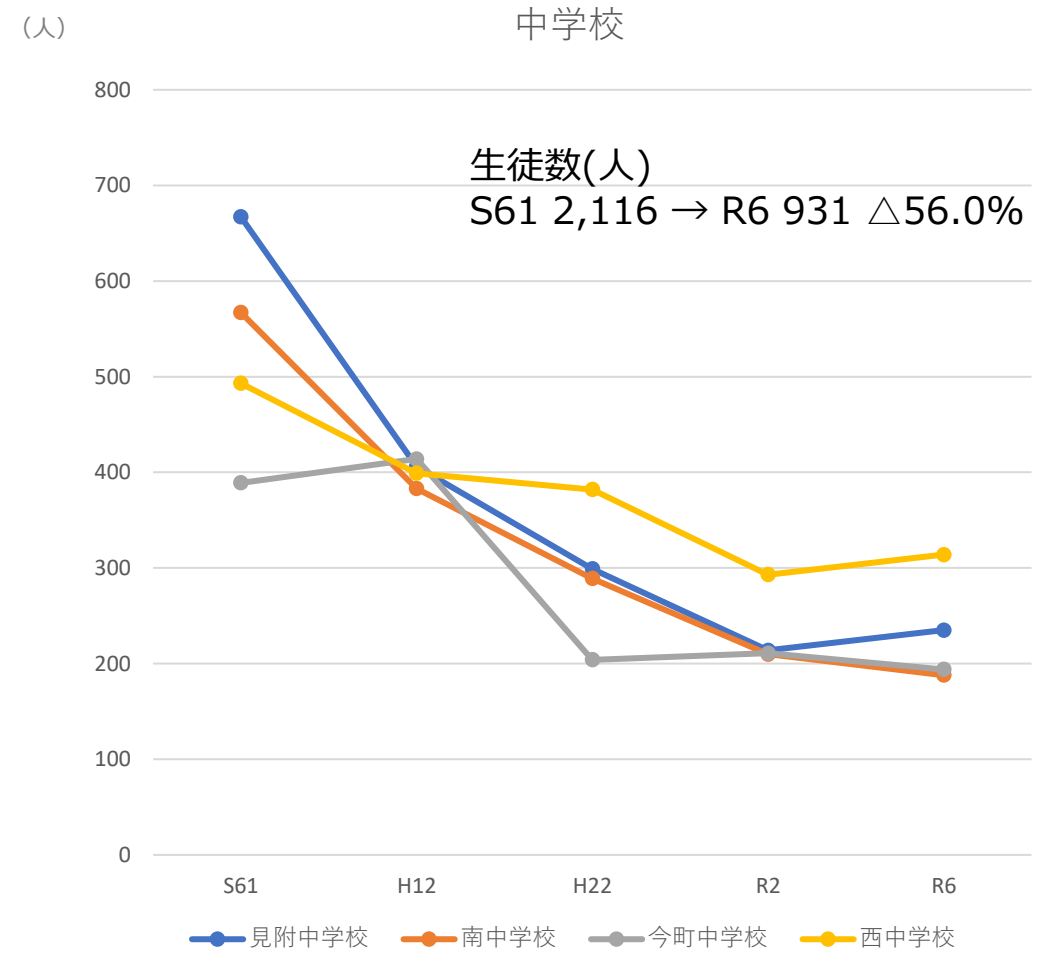
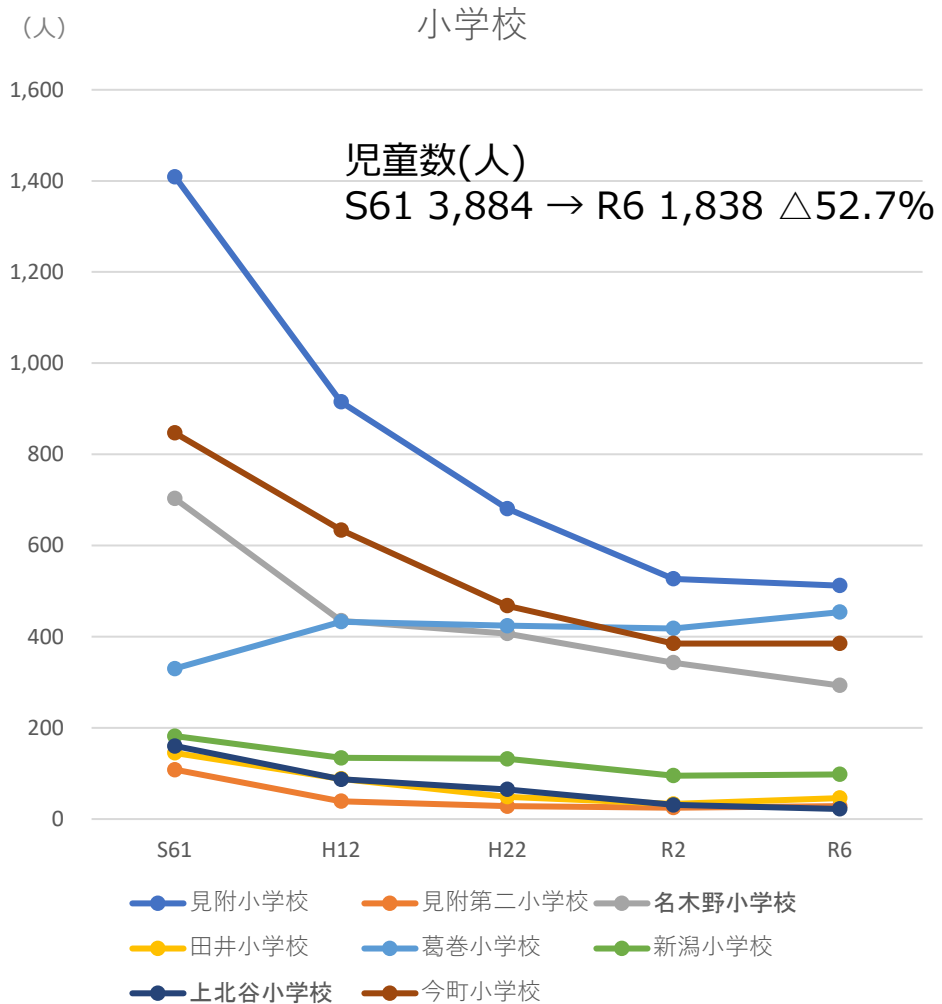


(北谷中)



(上北谷中)

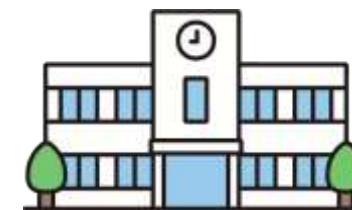
見附市の児童生徒数推移



R6年度生まれのこどもの小学校入学時の推計

小学校入学時 (単位：人)

(R13)	児童数							R7
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	計
見附小	69	80	75	63	81	68	436	478
第二小	0	1	2	1	1	3	8	22
名木野小	15	30	33	25	31	34	168	287
田井小	0	3	2	1	8	7	21	40
葛巻小	45	62	62	66	64	62	361	467
新潟小	6	9	10	13	10	16	64	96
上北谷小	0	2	1	3	1	2	9	20
今町小	34	44	39	52	39	62	270	361
計	169	231	224	224	235	254	1,337	1,771



△24.5%

R7.4.1住民記録台帳より。転入転出転居等は考慮していない。

R6年度生まれのこどもの中学校入学時の推計

中学校入学時 (単位:人)

(R19)	生徒数				R7
	1年	2年	3年	計	計
見附中	36	46	48	130	229
南中	15	35	36	86	199
西中	84	106	101	291	332
今町中	34	44	39	117	185
計	169	231	224	624	945

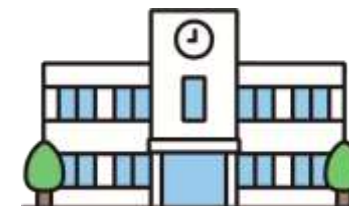
学区変更を行わない場合の人数。

△34.0%

(R19)	生徒数				R7
	1年	2年	3年	計	計
見附中	75	90	87	252	339
南中	15	35	36	86	199
西中	45	62	62	169	222
今町中	34	44	39	117	185
計	169	231	224	624	945

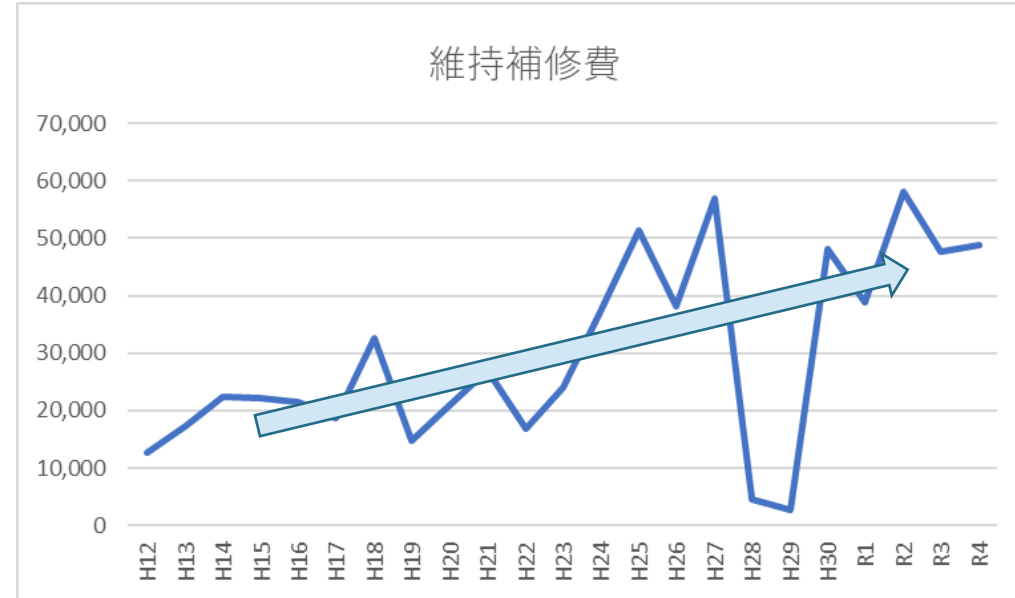
学区変更後（見附中・西中）の人数。

R7.4.1住民記録台帳より。転入転出転居等は考慮していない。



維持補修費の推移

小学校	建築年	築年数
見附小	H 5	31
第二小	S56	43
名木野小	S49	50
田井小	H 5	31
葛巻小	H11	25
新潟小	H 8	28
上北谷小	H14	22
今町小	H21	15
中学校	建築年	築年数
見附中	H 1	35
南 中	S53	46
今町中	S51	48
西 中	S61	38



単位：千円

	H12	H20	H25	H30	R4
維持補修費	12,747	20,903	51,385	48,065	48,896

小中特支学校 維持補修費の推移

名木野小はR6-R7に長寿命化工事実施中

すすむ施設の老朽化



名木野小 プール
壁面老朽化により修繕せず、
市民プールを使用して授業を
実施



南中 理科室
排水管腐食による破断
により漏水。



南中 体育館外壁
コンクリート爆裂による
鉄筋露出。



今町中 体育館
卒業式で雨漏り。バケ
ツで対応。

児童生徒数が少なくなることの課題

(1) 学級数や教職員数が減ることによって学校運営上の問題が顕在化

- ・ クラス替えできず人間関係が固定化
- ・ クラス内で男女の偏りが生じる
- ・ スポーツ実技や運動会、遠足等の集団行事の実施に制約
- ・ 授業で多様なものの考えを引き出しにくい
- ・ 配置される教職員が少なく業務が増す
- ・ **中学校は免許外指導（専門科目以外）の教科がでる**

県教職員配置基準 単位：学級、人

学級数	小学校	中学校
3	5	8
6	8	11
9	12	16
12	15	21
15	18	24
18	21	30

※校長、教頭を含め、養護・栄養教諭、事務職員を含まない

(2) 児童生徒への影響

- ・ 社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ・ 協働的な学びの実現が困難
- ・ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ・ 教員への依存心が強まる可能性がある

国社数理英の5教科は週当たり時数も多く、1人体制では難しい。9教科+5教科+校長・教頭=16人がそろそろ**9学級以上**が望ましい。

持続的で魅力ある学校教育のための取組

見附市の小規模校（第二小・田井小・上北谷小）での取組み

(1) みつばプランによる交流活動

小規模校三校合同による自然教室、フットサル教室、オンライン授業などの交流活動を実施することで協調性・多様性を育む。

(2) オープンスクール（小規模校特任校制度）

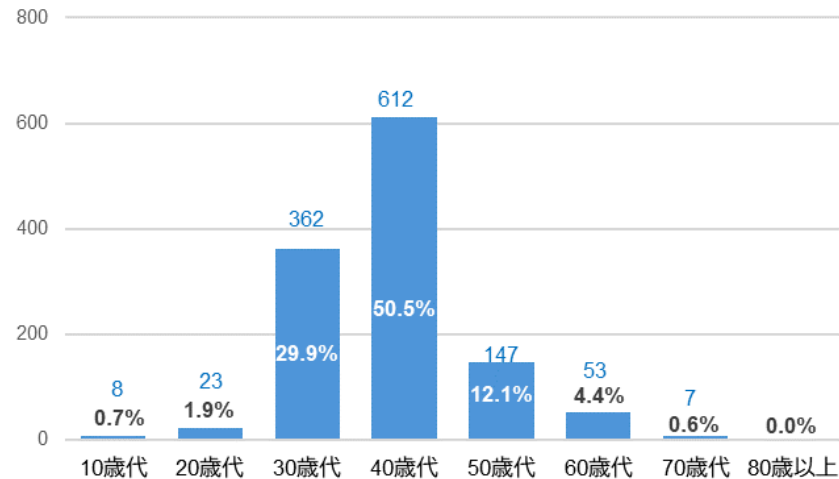
小規模のよさを生かしたきめ細やかな指導を希望する場合、他の学区からの転入学が可能。
→ R6:12人



市民アンケート結果【年代、統廃合について】

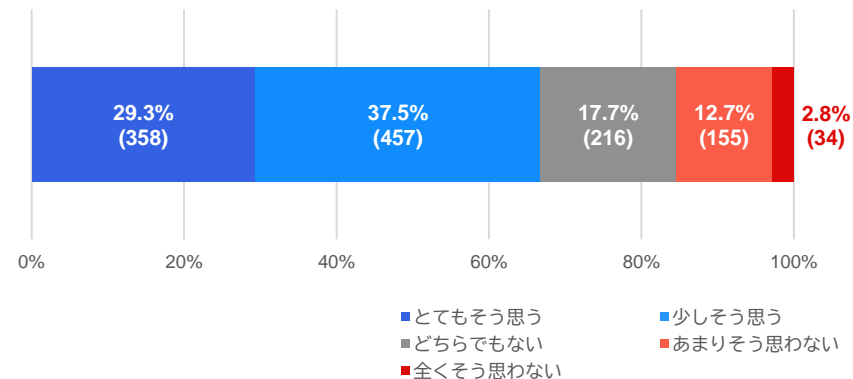
①あなたの年齢層（年代）を選択してください。

10歳代	8	0.7%
20歳代	23	1.9%
30歳代	362	29.9%
40歳代	612	50.5%
50歳代	147	12.1%
60歳代	53	4.4%
70歳代	7	0.6%
80歳以上	0	0.0%
総計	1,212	100%



②よりよい教育環境を目指すという観点から学校の統廃合が選択肢のひとつとして適切だと考えますか。

とてもそう思う	358	29.3%
少しそう思う	457	37.5%
どちらでもない	216	17.7%
あまりそう思わない	155	12.7%
全くそう思わない	34	2.8%
総計	1,220	100%

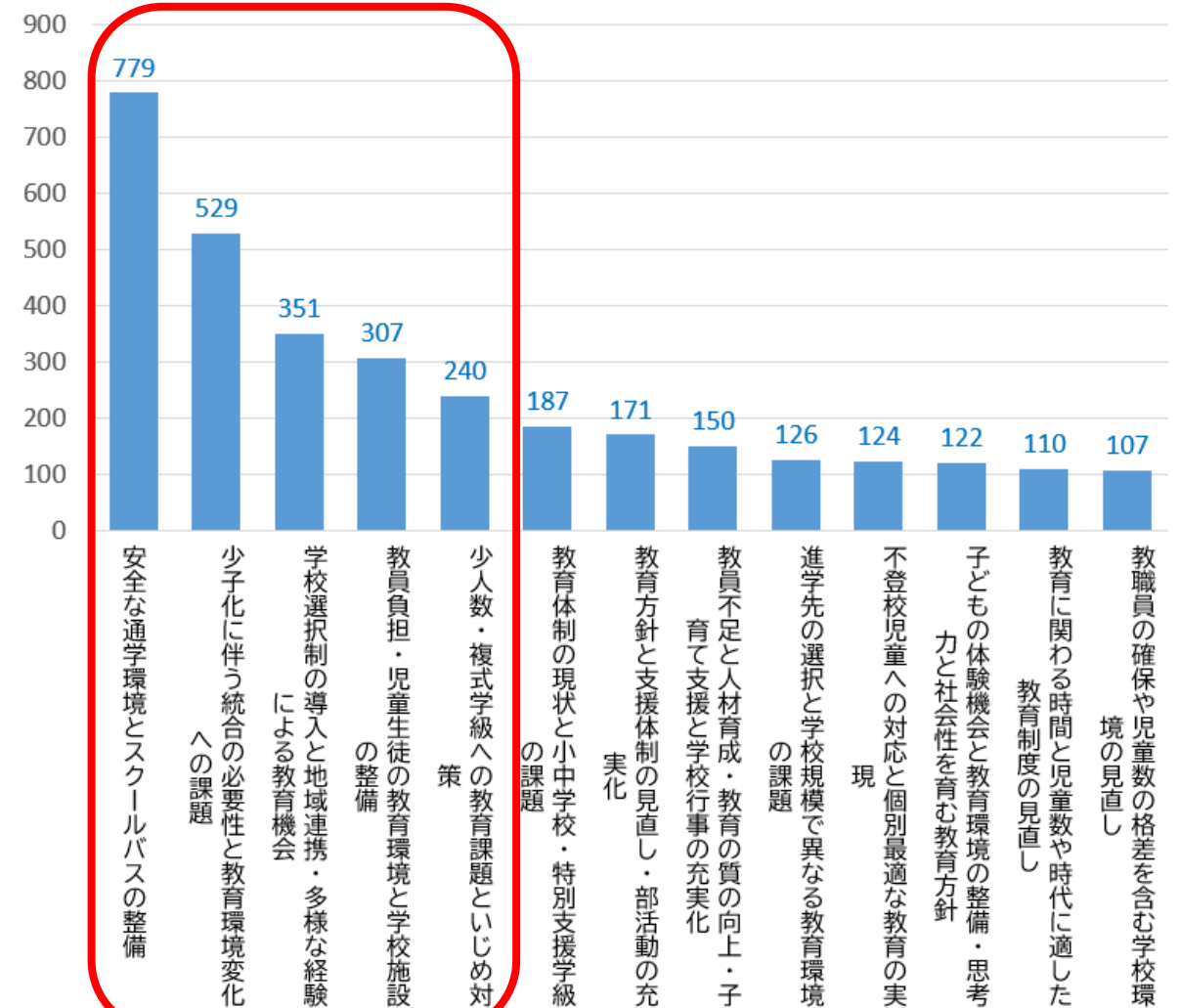


市民アンケート結果【自由記述】

自由記述(394件)で多かった意見（上位5つ）

- ①安全な通学環境とスクールバスの整備
- ②少子化に伴う統合の必要性和教育環境変化への課題
- ③学校選択制の導入と地域連携による教育機会
- ④教員負担・児童生徒の教育環境と学校施設の整備
- ⑤少人数・複式学級への教育課題と
いじめ対策

議題のカテゴリ出現頻度



学校適正配置計画案（小中学校再編方針）

学校配置等検討委員会からの答申を受け、「見附市学校整備の基本方針」を以下のとおりとします

- (1) コンパクトな見附市の良さを活かして、**共創郷育**をより着実に推進します。
多様性に対応できる学び場と教育の質を大事にします。
- (2) 小学校は、**一定規模の学習集団を確保**できるようにします。
- (3) 中学校は、**可能な限り専門教科教員を配置**することができるようになります。



学校適正配置計画案（小中学校の学校規模）

「見附市学校整備の基本方針」を基に次の考え方に沿って再編します

1. 共創郷育を大切にし、コンパクトな見附市の良さを活かした学校配置等を検討する
2. 見附市のこどもとしての一体感を育むことにつながるような教育環境を目指す
3. 小規模で特色ある教育を受けることができる環境の整備にも努める



見附市が目指す学校規模

- ・ 小学校 **1学年 1学級以上**
- ・ 中学校 1学年 3学級以上
- ・ 多様な学びの場の選択も可能とする

【参考】国の基準による標準的な学校規模

- ・ 小学校 1学年 2学級以上
- ・ 中学校 1学年 3学級以上



これまでの共創郷育や小規模な学びの場を大切にしてきたことから、小学校の学級数は1学年1学級以上とし柔軟に取り扱うことにしました。

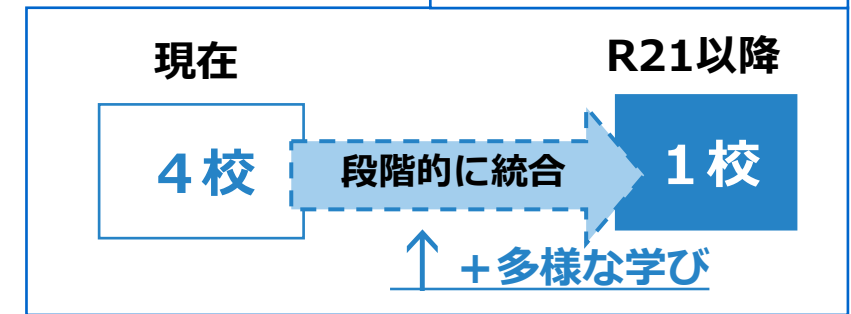
学校適正配置計画案（小・中学校の再編案の概要）

現在の中学校4校・小学校8校を次のように再編します

中学校

- 既存校舎を活用しながら段階的に統合を進めて
令和21年度以降に 1校に再編
- 加えて多様な学びの場に 配慮した学校配置も検討

中学校の再編イメージ

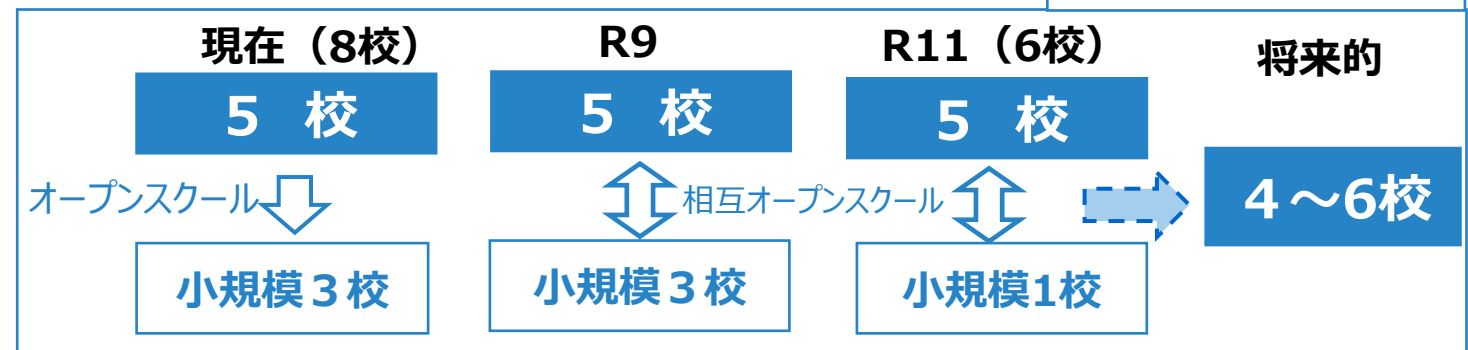


小学校

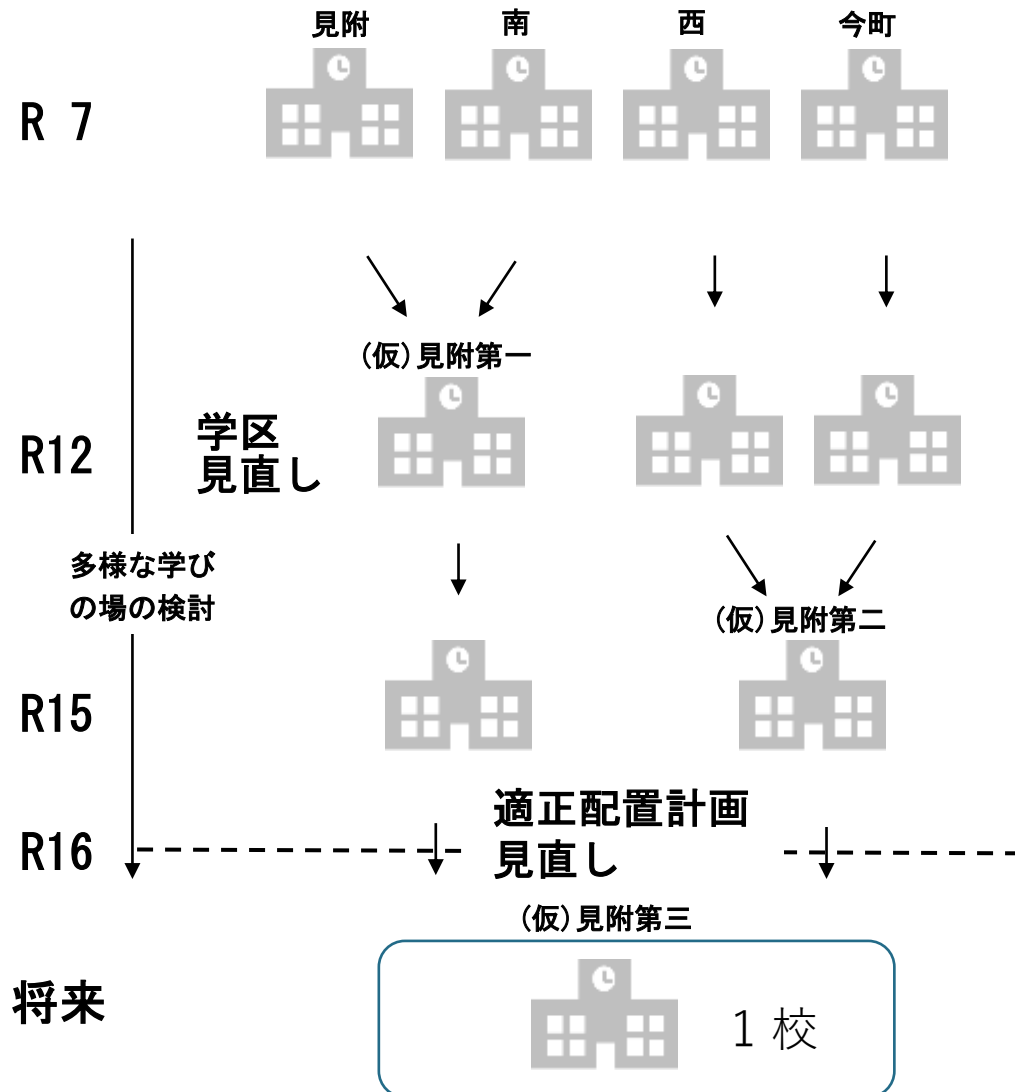
- 令和9年度に 相互オープン化

令和11年度に 6校に再編、将来的には 4～6校への再編を検討

小学校の再編イメージ



具体的な中学校の統合スケジュール



令和12(2030)年度

- 「見附中学校」と「南中学校」を「(仮)見附第一中学校」に新設統合します。校舎は、現在の見附中学校を使用します。
- 新中学1年生から、現在の見附小学校・西中学校の学校区を見附小学校・(仮)見附第一中学校へ変更する「学区見直し」を行います。

令和15(2033)年度

- 「西中学校」と「今町中学校」を「(仮)見附第二中学校」に新設統合します。校舎は、現在の西中学校を使用します。

令和16(2034)年度まで

- 多様な学びの場に配慮した学校配置の検討、学校適正配置計画の見直し

令和21(2040)年度以降

- 「(仮)見附第一中学校」と「(仮)見附第二中学校」を「(仮)見附第三中学校」に新設統合します。

中学校の統合について

統合地の選定

- ・校舎位置、建築年数、教室数
- ・仮設校舎、バス駐車場用地
- ・周辺道路状況

小規模中学校の検討

- ・小規模、少人数で学べる**多様な学びの場**を選択できる環境について検討
- ・小学校は小規模特認校がある

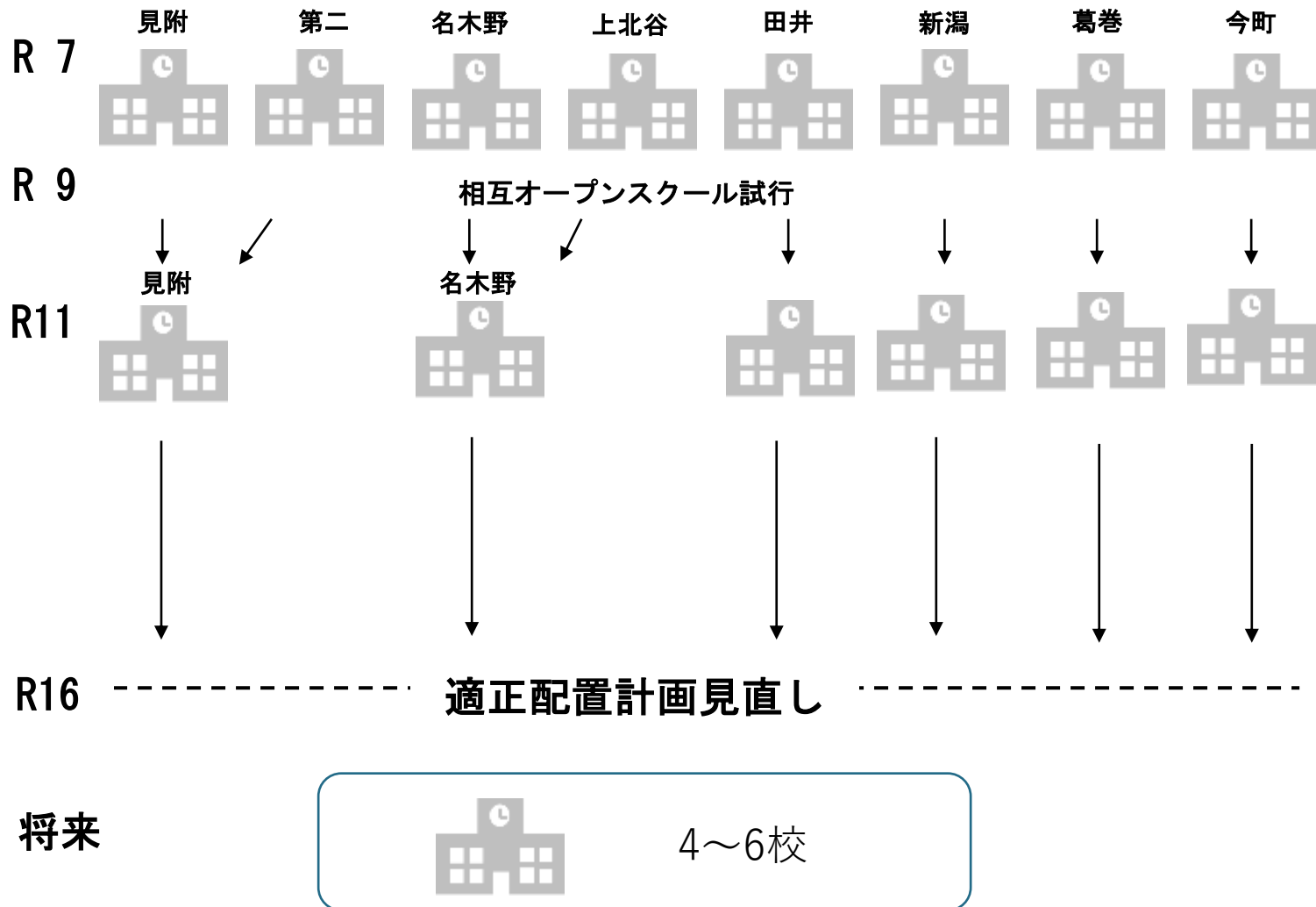


統合年次の相違 (R12・R15)

- ・小中連続した教育と生徒数の偏在是正のため**学区見直し**
→ **見小西中学区を見小見中学区へ**

新町2丁目1区～4区
新町3丁目1区・2区
本所1丁目1区～6区
本所2丁目
昭和町1丁目1区～3区

具体的な小学校の統合スケジュール



令和9(2027)年度

- 「相互オープンスクール」として、小規模特認校制度に指定されている小学校から市が指定する小学校へ通学を認める制度を試行します。

就学すべき学校	学区外就学校（指定校）
見附第二小	見附小
田井小	名木野小
上北谷小	

令和11(2029)年度

- 「見附第二小学校」を「見附小学校」に統合します。
- 「上北谷小学校」を「名木野小学校」に統合します。

令和16(2034)年度まで

- 小学校の適正配置について見直しを行います。
- 将来的に4~6校に統合します。

小学校の統合について

1学年1学級以上

国の基準では、学級規模のほかに「**地域の実態その他により特別の事情があるときにはこの限りでない**」としている。
市では、地域のつながりを大切にした共創郷育をすすめてきたことから、小学校のうちはできるだけ地域の学校に通えるように、学級数を柔軟に検討することとした。



相互オープンスクール

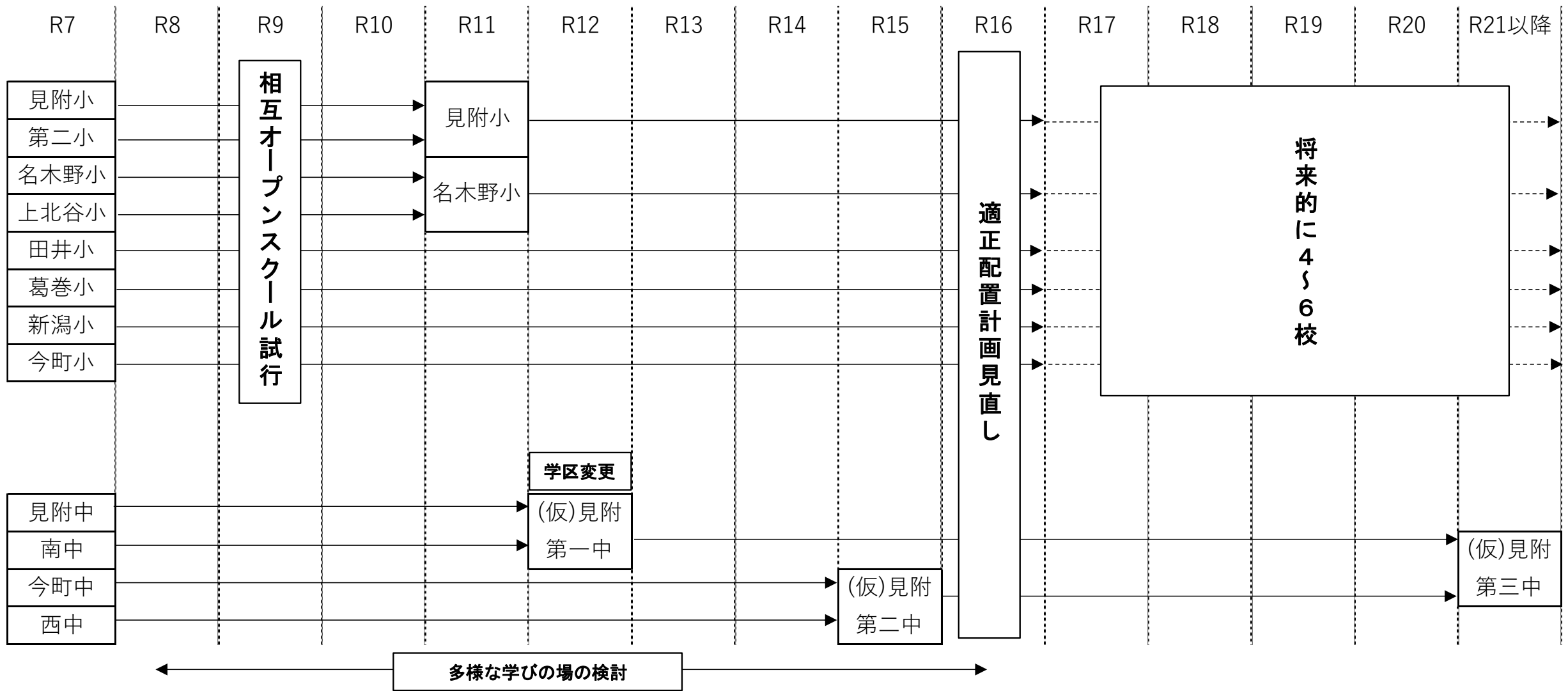
小規模校に通う児童にも、多様な学びの場を確保するため、希望する児童が学区外就学を認める制度。
保護者による送迎または公共交通を利用。

第二小 → 見附小

田井小・上北谷小 → 名木野小



小・中学校の再編案（全体イメージ）



学校適正配置の実施にあたり配慮する事項

こどもたちが安全・安心に学べる教育環境づくりを目指します

(1) 環境変化に対する配慮

⇒ こどもたちの心身の負担を軽減するための十分なケアを行います



(2) 交通手段の確保

⇒ 通学手段の確保として公共交通やスクールバスなどの活用



(3) 時代に即した学習環境の構築

⇒ 特別教室や体育館の空調整備など



今後のスケジュール

令和8年1月から2月

○パブリックコメントによる意見聴取
1月23日(金)～2月23日(月)

○市内各地域での説明会の開催
市内全ての小学校区単位で実施

令和8年3月ころ

○「見附市学校適正配置計画」策定・公表



「見附市学校適正配置計画(案)」は見附市ホームページでご覧になれます。

<https://www.city.mitsuke.niigata.jp/soshiki/14/46502.html>



最後に

見附市の目指す学校教育と教育環境としての学校

市が目指し推進する学校教育

- (1)共創郷育を推進する 地域の特色を生かした教育活動
 - (2)18年教育を推進する 成長の過程に合わせて一貫した指導
- ⇒ 地域への誇りや志を持った見附人を育てる

【参考】第6次見附市総合計画 教育大綱（案）

基本理念 魅力たっぷり 未来につなげる みんなのみつけ

・基本目標2 未来を担う人を育むまちづくり

- (1)選ばれる子育て教育環境づくりを進めます
- (2)こどものたくましく生きていく「生きる力」を育成します
- (3)時代に即した学びの環境づくりに取り組みます



ご清聴ありがとうございました

子どもたちの学び、
成長のために
いま、考えましょう